

特集：学生の児童文学運動

いまむかし

児童文学史に名を残す（通称）「少年文学宣言」は、一学生サークルである早大童話会のガリ版刷り会誌「童苑」に載せられたものだ。

『日本児童文学』1967年12月号の中心記事は、「学生の児童文学運動 その現状と問題点」と題した座談会だった。参加は、二松学舎大、國學院大、東京女子大、東京学芸大、埼玉大の五大学から8名の学生。司会は編集部から菅忠道、古田足日、横谷輝となっている。

かつて、児童文学を揺さぶり突き動かしていた学生のエネルギーは今は昔のことなのか。いや、私たちがつながりを見失っているだけなのではないか。もう一度学生のエネルギーを呼び込むために、各世代間、各時代間をつなぐ結び目として、この特集を送る。

